

まちのわだい



身近なできごとや旬の話題を、企画振興課秘書広報担当（☎6550）までお知らせください。皆さんからの情報をお待ちしています!!

100年前の植物標本見つかる

植物学者・橋本忠太郎さんの標本

必佐小学校で、十禅師出身の植物学者・橋本忠太郎氏（1886-1960）が採集した植物の標本約600種が発見されました。昨年8月、東京在住のひ孫にあたる女子生徒（当時中学3年）が、曾祖父の業績を調べようと必佐小学校を訪れたのがきっかけ。後日、教員が校舎3階倉庫を調べたところ、標本が納められた木箱が見つかりました。

標本は、主に明治39年から44年に、十禅師や綿向山など日野町とその周辺で採集されたもので、一つひとつ丁寧に白い画用紙に張り付けられています。

「橋本忠太郎氏の顕彰を進める実行委員会」の北村誓会長は、「当時の植物の分布や生態を知る上で、重要な資料です」と話されています。



▲標本は100年前とは思えないほど、保存状態がよく、今では町で見られなくなった植物も

先生ありがとう、さようなら「しゃくなげ園」

県立しゃくなげ園が42年の歴史に幕を下ろす



▶先生から花束を受け取り涙する卒園生たち

大字小御門にある滋賀県立しゃくなげ園が、平成20年3月31日をもって閉園となりました。しゃくなげ園は、知的障がい者の生活・就労訓練を行う入所施設として運営され、42年間で674名の卒園生を送り出されました。

3月21日金、しゃくなげ園の最後の卒園式が行われ、11名が旅立たれました。卒園生のお礼のあいさつでは、一人ずつが、「先生方、お世話になりました。ありがとうございます」「みんなと過ごせて楽しかったです」「4月からはクッキー作りをがんばります」「園で習ったことを忘れずがんばりたいです」と先生への感謝や、これからの抱負を述べられました。

保護者や先生からは、卒園生に言葉が贈られました。先生から花束を贈呈された卒園生の目には涙があふれ、先生に肩を抱かれる姿もありました。

黒田元吾園長は、「園で学んだことを新しい所でも活かしてほしい。そして、今までいろいろな支援を受けた分を、地域や社会に還元してほしい」と励ましの言葉を贈られていました。

卒園生たちは、4月から作業所やグループホームなど、それぞれの場所で新しい生活をスタートさせています。しゃくなげ園の役割は、「クリエートプラザ東近江」（能登川）に引き継がれています。





まちのわだい



▲『太田山を守る会』では、会員を募集されています
(現在41名)

栗拾いができる里山に

村井地区の里山「太田山」に植樹

3月16日(日)、村井地区の里山「太田山」で、栗の苗木30本を植樹されました。これは『太田山を守る会』(太田勝彦会長)が、太田山を住民の憩いの場にしようとして、毎年「緑の募金」と住民の方から寄贈いただいた苗木を植樹されているのです。

3回目となった今回は、子どもたちに栗を植えてもらい、将来、栗拾いが出来るようにとの思いで実施。参加した子どもたちは、スコップを手に一生懸命に作業をしていました。

栗拾いができる日が楽しみです。



▶基礎訓練に取り組む新入団員の皆さん

住民の安心と安全を守る

日野町消防団入退団(昇任)式

4月5日(土)、林業センターで、平成20年度日野町消防団入退団(昇任)式が行われました。退団者26名、新入団員26名、昇任者6名への辞令交付に続き、町長式辞、団長訓示が厳粛に執り行われました。その後、新入団員および昇任班長の皆さんは日野消防署で基礎訓練を受けられました。

消防団員の皆さんには、いつ起こり得るかもしれない災害から、地域住民の命や暮らしを守るために、昼夜問わずご活躍いただきます。

吉澤消防団長が

消防庁長官表彰を受章

3月7日(金)、東京日本武道館にて開催された「自治体消防制度60周年記念式典」において、日野町消防団長の吉澤郁一さんが消防庁長官定例表彰の永年勤続功労章を受章されました。

これは、現職消防団員で勤続25年以上消防団員として活動し、功績のある方に贈られるものです。

吉澤団長は、昭和57年4月に入団、以来26年間数多くの災害に出動し、地域住民の生命財産を守り、防火思想の普及に努め、消防団幹部として団員の指導育成など、消防団活動に積極的に取り組んでこられました。これらの功績が認められ、今回の受章となりました。おめでとうございます。



▶表彰を受けられた吉澤郁一団長の皆さん